

6 年前に大学を辞めて以来、ヒマになったので、テレビを見る時間が増えました。ニュースや情報番組（いわゆるワイドショー）を見ることが多いのですが、少し前までは新型コロナとウクライナ戦争の話題で持ちきりでした。最近ではガザの戦争、政治家の裏金問題、能登半島地震、羽田衝突炎上事故など、次々と大きな事件が起きます。解説委員や専門家の解説を聞き、コメンテーターの意見を聞くことで、事象に関する理解を深めることができますが、専門家といっても立場によって色々な考えがありますし、コメンテーターの意見も様々で、まさに今月の本間大先生の巻頭言の「多様性」が具現化されています。鋭い意見に感心したり納得したりする一方で、「それは違うんじゃないか」とか「こんな（変な）考えを持つ人もいるのか」など心の中で突っ込みを入れながら見ています。自由に意見を言えるのは専制主義国家ではない我が国のいいところで、様々な意見に触れることができるのは素晴らしいことだと思います。

そんな中、コメンテーターの一部に、自分の意見をはっきりと言わずに語尾をぼかした表現をする人がいるのにはいらつきます。「という見方もありうるのではないか」、「というように気もする」、「という考えがあってもよいのではないかという感じがする」、などです。自分の意見に自信がないのか、違う意見を持つ人に叩かれるのを恐れているのかわかりませんが、自信をもって表明する意見がないのであれば、テレビのコメンテーターなど引き受けるなど言いたくなります。

このようなあいまいな言い方が増えているのと同時に、まだ確定していないという理由で断定的な表現を避ける報道が増えています。よくあるのは、「心肺停止状態で発見され、病院へ搬送されたが死亡が確認された」という言い方です。医師の診察により死亡が確定する、というルールに従っているのですが、まだ蘇生する可能性がある状態ならともかく、心肺が停止して完全に冷たくなっているなら、医師でなくても死んでいることはわかるでしょう。そうであるなら「発見されたが現場で死亡が確認された」と言うほうが正確だと思います。

先日、米軍のオスプレイが屋久島沖で墜落し、8 人が亡くなる事故がありました。事故後すぐに 1 人の遺体が見つかりましたが、他の乗員はなかなか見つかりませんでした。事故から 5 日後ようやく 5 人が水中の機体の中で沈んでいるのが発見されましたが、その第一報が「5 人が発見されたがまだ収容できておらず容体不明である」であったのには驚きました。5 日間も水中に沈んでいるのに「容体不明」はないでしょう。死亡と確認されていないので遺体と表現できないのはわかりませんが、他の表現があったはずだと思います。正確を期すあまり、何を言っているのかわからなくなるような報道は本末転倒でしょう。

（相馬良直）

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第 66 巻 第 2 号 2 月号

2024 年 2 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

定価 3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 50,160 円（本体 45,600 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。